



秋田県立ゆり支援学校 道川分教室 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

◇ 県内の病弱特別支援学校の一つ

- 本校は「独立行政法人国立病院機構あきた病院」の重症心身障害児（者）病棟に入院中の児童生徒を対象として、病院から職員室と学習室（2室）の施設を借用し、訪問教育を行っている。高等部生には過年度卒業生も含まれている。教育課程は自立活動週14単位時間（経口での食事指導のある児童生徒は16単位時間）である。
- 児童生徒の実態や病状、配慮事項等について、病棟の医師・看護師・リハビリ担当者ときめ細かく情報交換しながら教育活動に当たっている。またICTの活用及び地域の小・中学生やボランティアとの交流、作品展示などを通して、児童生徒の経験の拡大や理解啓発に努めている。
- 全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟に加盟し、病弱教育に関わる研究会への参加や情報収集、情報提供を行い専門性の向上に努めている。

◇ 学校を取り巻く将来の状況の予測

- 未就学児、学齢児の入院がほとんど見込まれないため、児童生徒数の減少が予測される（平成30年度7名、31年度4名、32年度2名程度になる見込み）。

II 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

◇児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培う(教育目標)

- 重度・重複障害教育について、これまでの実践に基づいた実態把握及び教育内容、方法の整理を行い、より一層の授業の充実を目指す。
- 重度・重複障害教育におけるICT活用を進め、効果的な活用事例を蓄積する。

◇病弱教育にかかわる専門性を備え、情報の蓄積と発信ができる学校

- 全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟の加盟校として様々な情報を収集し、県内関係機関や関係校のニーズに応じて積極的に情報発信を行う。
- 県教育委員会による病弱教育に関するネットワーク構築に協力する。

III 具体的な目標・取組・推進指標

1 児童生徒の生命と人権を尊び、発達の可能性を追求し、豊かに生きる力を培うために

(1) よりよい授業づくり

- ①保護者及び児童生徒本人の願いを反映させた指導計画の作成
- ②ケース検討会（複数の目で行う的確な実態把握）・授業づくり検討会を実施
- ③授業デザインチェックリスト・授業実践チェックリスト・評価記録用紙の活用
- ④公開授業研究会の開催（年1回）

(2) 多様な教育活動の展開

- ①個別学習及び様々なグルーピングによる集団学習の実施
- ②交流及び共同学習の実施（地域の小学校）

- ③儀式、集会活動等の工夫
- ④地域ボランティア（人材バンク活用）や本校（ゆり支援学校）、地域の中学生との交流

（3）インターネットを活用した双方向同時中継やタブレット型端末の活用等、ICTの積極的な活用

- ①日常の学習での活用
- ②ベッドサイド学習の児童生徒の行事等への参加
- ③本校（ゆり支援学校）や県外の病弱特別支援学校との交流等

（4）高等部卒業生への支援

- ①卒業生支援（卒業後1年間）
- ②高等部卒業生のつどい「はなますのつどい」（年1回）

（5）病院関係者との連携

- ①病院・学校連絡会、学校・病棟連絡会、毎日の病棟連絡等の実施
- ②リハビリ参観、病院内研修会、避難訓練等への参加
- ③ボランティア人材バンク交流及び夏の行事（夏を楽しむ）等における病棟患者との交流
- ④病院との合同行事（合同節分）の開催、病院の行事（病院まつり等）への協力

（6）地域の理解推進

- ①「みんなの登校日」の開催、介護等体験・ボランティアの受け入れ、校外学習等での地域の方との交流
- ②病院内にアートギャラリー（常設作品展示）の設置
- ③ミニ学校展（地域の施設5か所程度）の開催
- ④ホームページによる情報発信

2 病弱教育に関わる指導力・専門性の向上を目指し、情報蓄積・発信及び支援提供ができる学校づくりのために

（1）全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟の加盟校として

- ①全国及び東北地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会への参加及び実践発表
- ②各研究協議会での情報収集、県内関係校へのニーズに応じた情報提供

（2）病弱教育に関わる職員の専門性の向上

- ①外部人材を活用しての授業研究会及び研修会の開催（情報発信）
- ②校内における学習会・研修報告会の実施
- ③県内外の特別支援学校の授業研究会や研修会への参加
※本校（ゆり養護学校）の自立活動研修会・授業研究会への協力

（3）病弱教育に関するネットワークづくりのために

- ①病弱教育に関する指導力・専門性の向上を目指した秋田きらり支援学校や他県病弱特別支援学校との連携継続・定着
 - ・公開授業研究会・研修会への相互参加の継続
 - ・研修会等で授業実践を紹介する教員の相互派遣
 - ・インターネット中継を活用した教員の研修会・授業検討会の実施
- ②センター的機能による県内病弱・身体虚弱教育担当教員間のネットワーク構築
 - ・病弱・身体虚弱特別支援学級設置校への訪問（目標訪問率：100%）
（「現状把握・情報共有」から「ニーズに応じた情報提供及び支援内容・方法の提案」へ）
 - ・秋田きらり支援学校と連携した病弱教育研修会等の企画・開催（年2回）
 - ・実践情報（学習指導案、年間指導計画、人材等）のデータベース化及び専用ウェブサイトの開設検討

※病弱・肢体不自由教育支援事業の推進